宮崎日日新聞２０２６年４月１５日

舗装材開発 需要伸ばす

鉄筋の生産過程で出る副産物の酸化スラグを原料に開発した清本鉄工（延岡市）のポーラス（多孔質）コンクリート舗装材「ぱどれすロード」が需要を伸ばしている。透水性や保水性に優れ路面温度の上昇を抑える環境に配慮した製品だ。

清本鉄工（延岡） 鉄筋生産副産物スラグ活用

ポーラスコンクリート舗装材ぱどれすロードの原料（骨材）となる酸化スラグ（九州製鋼提供）

パドル（水たまり）レス（なくす）との意味を込め2022年に発売した。骨材の酸化スラグが内部に隙間を作るため透水・保水性があり、水がたまりにくく河川の急激な増水抑制につながる。気化潜熱により表面温度はアスファルト舗装より4～9度低く、ヒートアイランド抑制も期待できる。

厚さ10㌢以上であれば車道にも対応する。明るい灰色だが塗装により着色可能。透水・保水性舗装を手がける「くりんか」（福岡県宗像市）との技術提携によって開発した。

透水、保水性 路面温度上昇抑える

原料はスクラップから鉄筋を製造する関連会社の九州製鋼（福岡県久山町）の佐賀工場（佐賀県武雄市）が産出。工場から年間1万3千㌧出るスラグはほとんどが路盤材や土木用砕石となり武雄市近郊で全量消費されている。舗装材の開発はスラグの付加価値向上を狙った。鉄スクラップを電気炉で溶かす際に出るスラグから酸化スラグを分別。砕いてふるいにかけ5～13㍉の粒にそろえ骨材とする。施工の際は仕様を業者に伝え立ち合いで検品する。

22年には、試験発注で官公庁での受注実績をつくることにより販路拡大を支援する佐賀県のトライアル発注製品に認定。23年には国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）に登録され、25年には佐賀県のリサイクル製品にも選ばれた。

主に工場近郊の公共工事で採用されており、JR武雄温泉駅南口の一部や市民体育館駐車場、市内中学校プールの通路などで実績がある。直近では、唐津市に建設中の世界海洋プラスチックプランニングセンターの外構舗装に採用された。

単価はアスファルトの3倍、他のポーラスコンクリート舗装材より10～20％高い。酸化スラグの分別にコストがかかるためで、分別を不要にする研究を進めている。

九州製鋼の高本勇・安衛品環部長は「環境に優しい特徴を施主にアピールするとともに、単価を下げるべく努力し普及を図る」と話している。（湯田光）

佐賀県嬉野市総合運動公園でのぱどれすロード施工例（着色、九州製鋼提供）

佐賀市サンライズポケットパークでのぱどれすロード施工例（無着色、九州製鋼提供）

宮崎 環境保全

著作権は宮崎日日新聞にあります